

大口通商店街調査隊 大口通商店街の魅力をカルタで伝えよう

日 時：令和4年6月21日（火） 第5校時 場 所：3年1組 教室 授業者：森口 睦代

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

- 子どもたちは、昨年、生活科で大口通商店街をたんけんしていて、商店街の中から自分たちのお気に入りの店の商品について紹介している。また、商店街の中には、保育園があり、クラスの中には、卒園児がいる。商店街で買い物をしたことがある児童も多く、生活に密着しており、馴染みが深い。今年度、異動してきた担任に、商店街について、生き生きと教えていたことから、商店街について、知らない人に「教えたい。」「知らせたい。」という気持ちが強い。
- 古くからある大口通商店街のことについて、もっと知りたいという気持ちを持っている。
- 昨年の3年担任から、活動の様子を聞くと、まちの魅力を発信することに、興味をもっていることがわかった。商店街について調べたことを、自分たちで考えた方法で、発信してみたいという思いを持っていることが分かった。

身につけたい力と材について

- 歴史ある大口通商店街は、地域に根差した商店街であり、地域とともに発展してきた。商店街の人たちは、地域のために商売を続け、地域に貢献したいという思いや願いがあることに気づき、大型スーパーにはない、商店街のよさがあることを知る。
- 地域の人たちと関わることを通して、大口のまちの人たちの思いを知り、自分たちが住んでいる「まち」のよさに気づき、大口のまちが好きだという思いをもたせたい。
- 地域の人たちと関わることを通して、自分にできることを見つけようとする態度を育てたい。
- 人に聞いたり、ICTを使って調べたりして、必要な情報を集める力を身につけさせたい。
- 自分たちが調べた情報を、相手に伝わるようにまとめることができる。
- 学級で力を合わせて課題を解決しようとする力を身につけさせたい。

単元目標

大口通商店街の店主や、商店街で働く人々、買い物に訪れる人々と触れ合ってカルタをつくることを通して、「大口通商店街の人々の思い、願い、商店街のよさ」に気づき、商店街のよさがより伝わるカルタの内容や発信方法を考え、自分たちが住んでいる「まち」のことを好きになり、「まち」のために自分にできることを見つけ、進んで取り組もうとする思いをもつことができるようにする。

探究課題の解決を通して育てたい資質・能力

探究課題	知識・技能	思考力・判断力	学びに向かう力・人間性等
カルタの制作と、それを通して見つけるまちのよさや人々の思いや願い	<ul style="list-style-type: none"> 大口通商店街をつくっている人々の思いや、まちのよさに気付く。 大口通商店街の人々の思い、願い、よさを知るために、適切な質問を考え、インタビューすることができる。 大口通商店街の人々の思い、願い、よさを知ることで、まちのよさに気づき、まちが好きになったという思いは、カルタの制作を探究的に学習してきたことの成果であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 大口通商店街の人々の思い・願い・よさを知るために必要な調査方法を考え、活動計画を立てることができる。【課題の設定】 人に聞いたり、昔の資料を調べたりして、必要な情報を集めることができる。【情報収集】 整理した情報をもとに、カルタづくりに必要な内容を考え、形にすることができる。【整理・分析】 出来上がったカルタをまちの人たちに知ってもらうための方法を考えることができる。【まとめ・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> 「大口通商店街調査隊」の活動に興味をもち、クラスの友だちと力を合わせて、課題を解決しようとする。 課題を解決しようとする活動を通して、自分の考えと違う考えや意見があることに気づき、協働して学びあおうとする。 大口通商店街の人たちと関わり、触れ合うことを通して、自分にできることを見付け、進んで取り組もうとする。

2 研究の視点（テーマに迫る手立て）

学びをつくり出す力の育成 ～思いや願いの実現に向けて、本気で追及することも～

(1) 本單元における「学びをつくり出す力の育成」

- ・大口通商店街のこれまでの歩みや、商店街を盛り上げるために、これまで活動されてきた思い、苦勞話、これからの商店街に対する願い等を聴くことで、まちのために自分に何ができるのかを考えてほしい。
- ・大口通商店街の「ひと・もの・こと」と出会い、繰り返し商店街を訪れる活動を通して、社会とつながっていることに気づいてほしい。
- ・社会科や国語科、算数科等の学習活動と関連させながら、自らの課題に気づき、課題解決に向けて粘り強く、あきらめずに取り組んでほしい。
- ・カルタを作成するにあたり、友だちと話し合うことで、自分と違う考え方があることに気づき、友だちと協力して、一つのものを作り上げる喜びを味わってほしい。

(2) 思いや願いの実現に向けて、本気で追及することも

研究の視点① 探究課題の解決を通して育てたい資質・能力を明確にした授業実践

- ・2年生の生活科で学習した、まちたんけんの体験活動を通して、自分たちの身近な存在である「大口通商店街」を取り上げることで、問題に気づき、自らの探求課題を見つけやすくなるのではないかと考える。
- ・気づきや発見、疑問に思ったことをその場ですぐに記録できるよう、学習カード等を活用することで、問題を整理したり、まとめたりすることができやすくなると思う。
- ・商店街マップを作り、調査した商店をマップに書き加え視覚化することで、次の探求課題に気付くことができると思う。
- ・子どもたちが考えたキャッチフレーズ「偉大なる大口通商店街博士になろう」に合わせて、今の自分たちが、偉大なる博士に近づいてきたかをわかりやすくするために、レベルメーターを作成し、掲示することで、子どもたちの意欲を高める。

研究の視点② 探究課題を追求したくなる指導と評価の工夫

- ・体験活動を通して気づいたことや、疑問をもとに話し合い、共通する考えを、グループ化しまとめ、自分と同じ考えや違う考えがあることに気づき、子どもの考えを視覚化することで、課題を見つけやすくなるのではと考える。(板書の工夫)
- ・商店街で働く人たちとふれあい、話を聞くことで、商店街の人たちのそれぞれの思いに触れ、子どもたちは、その思いに気づき、考えを深めることができるだろうと考える。
- ・カルタを作成するにあたり、カルタ作成の専門家を招聘し、話を聞くことで、本物に触れる経験をすることで、子どもたちは、本気で探究課題に向き合うことができると考える。

大口通商店街調査隊 大口通商店街の魅力をカルタで伝えよう

(総合52時間 国語20時間 社会4時間 図工23時間 学級活動5時間)

- 2年生のまちたんけんでは、大口通商店街をたんけんしたよ。
- 大口通商店街に、買い物に行ったことがあるよ。いろいろなお店があるよ。
- 大口通商店街のことを、もっと知りたい。
- 去年の3年生は、カルタでまちのことを紹介したみたい。私たちも、調べたことを紹介したいな。

1 大口通商店街の良さや人々の思いや願いを調査しよう (総合8時間 社会4時間 国語4時間)

- 大口通商店街に行って、店の人から話を聞いてみよう。
 - ・お客さんに、笑顔になってもらいたいと思っていることが分かった。
 - ・お客さんに喜んでもらうために、商品をそろえたり、お客さんの希望を聞いたりしていることが分かった。
 - ・商店街の人たちは、お客さんに優しいことが分かった。
- 大口通商店街の良さや人々の願いや思いを、もっと聞いてたいな。
 - ・商店街の中の、いろいろなお店から、話を聞いてみたいな。
 - ・商店街に買い物に来ている人たちからも、商店街の良さを聞いてみたいな。

- ・大口通商店街のことについて、知らないことがたくさんあったね。
- ・もっとたくさんのお店から話を聞いてみたいな。
- ・調べたことをたくさんの人に伝えたいな。

2 大口通商店街の魅力を伝える方法について考えよう (総合4時間 国語4時間 図工8時間)

- どんな方法があるかな。
 - ・カルタはどうか。・ポスターはどうか。・マップにするのはどうだろう。

- ・商店街の良さを伝えるには、どんなカルタがいいかな。
- ・カルタをつくるには、何が必要かな。
- ・カルタ作りに詳しい人はいないかな。話を聞いてみたいな。

3 大口通商店街の良いところを伝えるカルタを作ろう。(総合10時間 国語8時間 図工10時間)

- どんなカルタにしようかな。
 - ・遊んで楽しくなるかるたがいいな。・できたカルタで遊んでみたいな。
 - ・商店街の良いところをより伝えるためには、どんなカルタにするといいのかな。

4 カルタ作りのプロに話を聞いてみよう。(総合10時間 国語4時間 図工5時間)

- ・カルタ作りで大切にすることがわかったね。
- ・読み札の言葉と取り札の絵が一致していることが大切なんだね。

5 自分たちで制作した大口通商店街のカルタを、多くの人に知ってもらおう。(総合10時間 学級活動3時間)

- 出来上がった「大口通商店街カルタ」で遊んでみよう。
 - ・改良するところはないかな。
- 「大口通商店街カルタ」をどうしたら広められるかな。
 - ・カルタを広める方法を考えよう。

6 1年間を振り返ろう。(総合10時間 学級活動2時間)

- 自分たちが住んでいるまちのことが、好きになった。
- まちのために、自分に何かできることはないかな。

4 小单元構想

(1) 本小单元の評価規順

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口通商店街で働く人や、お客さんに、自分が聞きたいことを考え、質問することができる。 ・ 大口通商店街の良さに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街で働く人たちは、お客さんに笑顔になってもらいたいと考えていることに気づくことができる。 ・ 商店街で働く人たちの思いや良さに、気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口通商店街で働く人や、商店街事務局などの商店街に携わる人たちの思いに気づき、理解しようとする。 ・ 大口通商店街で働く人たちに自分から、関わろうとする。

(2) 小单元目標

大口通商店街に関わる人たちの思いに気づき、大口商店街の人たちから聞いた話をもとに、気づいたことをまとめよう。

(2) 小单元展開

1 大口商店街調査隊

学習課題 大口通商店街のよいところをたくさん見つけよう。

活動内容 大口通商店街を調査して、商店街のよさを調査しよう。

- ・ 商店街に買い物に来る人たちのために、たくさんの工夫をしている。
- ・ 商店街の人たちは、お客さんに喜んでもらうために、商品をそろえている。
- ・ 商店街の人たちは、お客さんに喜んでもらえることが、嬉しいと感じていることがわかった。
- ・ 大口通商店街協同組合は、お祭りや福引をやっていることがわかった。商店街に買い物に来る人たちだけではなくて、地域の人たちのために仕事をしていることがわかった。

活動内容 大口通商店街の人たちの良さや、商店街の魅力について考えよう。

- ・ 昔からのお店が続いているのは、いつもお客さんのことを考えて、お店を続けているからかな。
- ・ 大型スーパーやディスカウントショップとの違いは何だろう。
- ・ お店の人たちは、お客さんに笑顔になってもらいたいと思っているから、お客さんが来るのかな。
- ・ 魚屋さんは、魚だけを売っているね。いろんな種類の魚を売っているね。スーパーにはこんなに種類はないよ。お客さんの希望を聞いてくれているんだね。
- ・ 料理の方法を教えてくれるよ。

活動内容 買い物に来ている人たちにインタビューして、お客さんの思いを聞いてみよう。

- ・ 大口通商店街は昔から来ている。店の人と話をするのが楽しい。
- ・ 店の人は、自分の好みをよく知っているので、買い物がしやすい。

活動内容 商店街の良さを調査するためには、もっとたくさんのお店を調査したいな。

- ・ 大口商店街の良さを伝えるためには、もっと多くの店の人から話を聞いたほうがいいと思う。
- ・ 商店街の良さがわかるように、質問の内容をよく考えてないといけないと思う。
- ・ 自分が気になるお店を選んで、調査したいな。
- ・ 偉大なる商店街博士に近づいてきたかな。

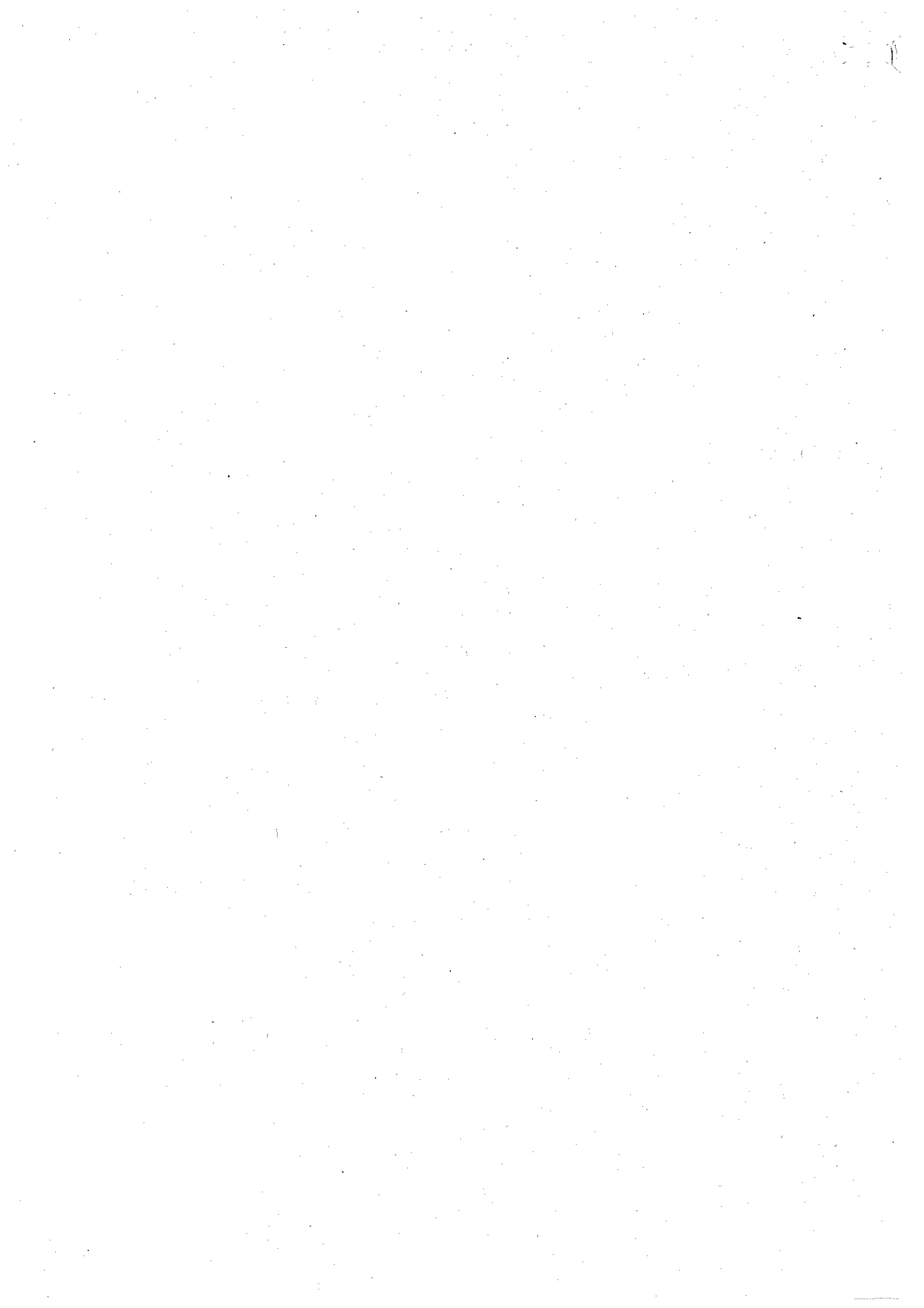
5 本時について

(1) 本時目標

- ・米屋商店の店長の話聞いて、分かったことや気づいたことを出し合うことを通して、米屋商店さんの良いところや、魅力に気づくことができる。

(2) 本時の展開 (8/16)






予想される子どもの活動と反応	・手だて ★評価基準
<p>○本時の学習課題と学習課題の見通しを確認する。(3分)</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">米屋商店さんの話を聞いて、米屋商店さんの良いところを出し合おう。</p> <p>○米屋商店さんの話を聞いて、米屋商店さんの良いところを出し合う。 (25分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店で買い物をしたら、サービスをたくさんしてくれた。また、買い物に行きたいと思った。 ・いつも、やさしく私たちに声をかけてくれるから、米屋商店さんは、優しい人だと思う。どうしてそんなに優しくしてくれるのだろう。 ・温かいたい焼きを、お客さんに食べてもらいたいと思っているから、一度にたくさんたい焼きは焼かないんだって。お客さんのことを大事にしているんだね。 ・駄菓子の種類がたくさんあって、子どもは背がまだ高くないから、駄菓子を取りやすいように低い場所においてあるよ。私たちのことを考えて、商品を並べているんだね。 ・大型スーパーに行ったら、袋でお菓子が売ってあって、米屋さんみたいに一つずつ買えると、好きな駄菓子を好きなだけで買って嬉しい。 ・一つひとつが安いから、自分のお小遣いで、駄菓子を買えるよ。 <p>○みんなの考えや意見を、まとめる。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米屋商店さんは、子どもたちのことが大好きだから、たくさんサービスしてくれるんだね。 ・買い物に来る、子どもたちのことを考えて商品を並べているんだね。米屋さんは、お客さんに優しいお店だね。 ・安い駄菓子売っているのは、お客さんにたくさん買いものに来てほしいと思っているからだろう。 ・お客さんのことを思って、お店を続けているのは、能登屋さんや越後屋フルーツさんと同じだね。 ・ほかのお店の人たちは、どうなのだろうか。みんなに笑顔になってもらいたいと思っているのかな。 <p>○活動の振り返りと、レベルメーターを使い、「偉大なる大口通商店街博士」の現在地を確認し、100に近づくために、次は何を調査するのか考える。 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米屋さんは、優しい人だということがわかった。 ・今日で、博士レベル「35」まで来たと思う。 <p>○次時の学習内容を確認する。(2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は、お客さんにインタビューしてみたいな。 ・「くらし」や「サービス」「食事」などのもっといろいろなお店から、話を聞いてみたいな。 	<p>・調査で記入した、ワークシートを見て、発表できるようにする。</p> <p>・似たような考えや、意見も発表できるようにする。</p> <p>・これまでの調査の結果を振りかえられるよう、教室に掲示しておく。</p> <p>・子どもたちから出た意見や考えを、短冊に記入し、後から同じ意見や似た考えを、移動できるようにする。</p> <p>★調査した結果を整理し、自分の考えを発表しようとしている。(思考・判断・表現) 【発言・ワークシート】</p> <p>・博士レベルメーターで今日のレベルを確認する。</p> <p>★話し合いを通して、商店街や、米屋さんの良いところに気付いている。(思考・判断・表現) 【発言・ワークシート】</p> <p>・次への活動の目的を考えられるようにする。</p>



② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立西寺尾小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
6	学校の周辺	まちたんけん		<ul style="list-style-type: none"> ・土地の高低差に気づいている。 ・平坦な場所には大型スーパーや公共施設がある。
3	大口通商店街	大口通商店街協同組合 理事長の話を聞いた。		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史のある商店街だということがわかる。 ・もう少し詳しく調べてみたい。
3	学校	大口通商店街のホームページを閲覧した。		<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店が多い。 ・新しい店ができている。 ・商店街にはマスコットがいる。 ・協同組合ってどんな仕事をしているか知りたい。
5	大口通商店街協同組合	大口通商店街協同組合を見学し、協同組合は、どんな仕事をしているのかを聞いた。	 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同組合は、商店街の中心部ということがわかった。 ・協同組合は、商店街の人たちが、話し合いをすることでわかった。

18	大口通商店街	大口通商店街の店舗を取材した。	    	<ul style="list-style-type: none"> ・大口通商店街の人は、やさしい。 ・商店街の人は、お客さんのためを思って仕事をしている。 ・お客さんのために商店街の人は頑張っている。
15	学校	カルタ作り		<ul style="list-style-type: none"> ・カルタを完成させるために、50音の担当者を決めようがよい。

8	学校	出来上がったカルタを大口通商店街の、どの商店に持っていくのかを班で決め、お礼の手紙を書く。		<ul style="list-style-type: none"> ・出来上がったカルタを見てもらってうれしい。 ・喜んでもらえてよかった。 ・「ありがとう」と、言ってもらえてうれしかった。
---	----	---	--	---

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

- ・子どもたちの質問に答えてもらえる商店を、事前に探した。
- ・商店街に行く目的を子どもたちと確認後、商店街に行くようにした。
- ・カルタ作りの参考になるように、また、カルタ作りに自信をもって取り組めるように、カルタ作りのプロと出会わせた。
- ・お気に入りの商店や、商店街のよさを見つけられるように、何度も商店街を訪れた。
- ・カルタ作りに取り組むと決めた5月から、カルタ遊びの楽しさを子どもたちに味わわせたいと考え、いろいろなカルタを準備し、子どもたちが手に取って遊べるようにした。

(2) 実施にあたり苦労した点

- ・商店街のよさを多くの地域の人に知ってもらうために、どんな方法を使って知らせるかを話し合う際、本とカルタの二つが候補に挙がった。子どもたちの考えを、カルタに向かわせることに苦労した。
- ・カルタ作りにあたり、商店街のよさよりも、お気に入りの商店の商品を説明するカルタを作っている児童が多く、商店街のよさをカルタに込めて作成することが難しかった。
- ・子どもたちみんなが納得できるカルタができあがるまでに、予想していたより、かなりの時間を要した。
- ・商店名を表現できないため、商店のよさをどのように取り札の絵に込めればいいのか、迷う子どもが出た。

(3) 児童の反応

- ・学習を始める前は、学習以外で商店街に行ったことがない子どもたちもいたが、学習を通して、商店街に興味をもち、家族や子どもたち同士で買い物に行くようになった。
- ・商店街を訪れるごとに、子ども達は商店街のよさや、商店街の人たちがお客さんのためを思って仕事をしていることに気付けるようになっていった。
- ・最初、50音の担当や描く内容を決めずにカルタを作った。子どもたちから、50音の担当を決めて作ったほうがいい、同じ商店が重なっているから重ならないようにする必要があるなど、課題に気づいていた。
- ・よりよいカルタにしようと、何度も描き直した。根気強く取り組む姿があった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- ・活動の目的を子どもたちが意識できるように、活動をする前に必ず、活動の目的を伝えてから活動した。
- ・商店街の人たちのよさや思いを常に意識できるように、教室にこれまでの学習過程を掲示した。
- ・よりよいカルタを作成するために、カルタ作成のプロと関われるようにした。
- ・読み札の作成にあたり、図画工作に詳しい職員のアドバイスをもらった。
- ・担任外の教諭に質問や相談をすると、ていねいに答えてくれた。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]

- ・カルタ作りでは、クラスでの話合いを通して、クラスの課題に気づくことはできたが、個人になると自分の課題に気づけていない児童がいる。自分の課題に気づけるようになるためにどのような手立てが必要なのか、検討する必要がある。
- ・活動の振り返りを、言語化できない児童がいる。自分の課題に気づいているのかもしれないが言語化できないことで、指導者側が児童の課題に気づけていないことも考えられる。そのような児童をど、どうやって言葉で表現できるようにするかが、課題である。

